

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173501271), 法人名 (医療法人社団上田病院), 事業所名 (グループホームあいあい 桃ユニット), 所在地 (登別市美園町4丁目23-9), 自己評価作成日 (平成25年7月31日), 評価結果市町村受理日 (平成25年9月30日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を感じられるように、行事や食事を工夫しています。春は花見や水族館へ出かけ、屋外での食事を楽します。夏は町会のお祭りやあいあいでバーベキューに町会や家族にも参加してもらっています。秋はぶどう狩りや運動会。冬は外出の機会が少ないため、屋内での楽しみに力を入れています。(かるた、習字、裁縫など) 6月から10月の期間上田病院の大浴場へ行き温泉気分を満喫しています。「もくれんの会」という踊りのボランティアの方が毎月きています。盆踊りなどを一緒に踊り楽しんでいます。傾聴ボランティアで近隣の方が毎週来ています。上田病院託児所から定期的に訪問があり、小さな子供たちとふれあう時間をもっています。母体が上田病院であり、緊急時の診察や治療もスムーズです。点滴も安心してホーム内で受けることができます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kajokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JgvyosyoCd=0173501271-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年9月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

Table V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します. Columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域での生活の中で現在の機能を維持しながら安心して生活できるように、ケア理念を共有して、実践につなげられるように話し合っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入。お祭りや町内会のレクに参加している。またあひあひの行事(防災訓練、バーベキュー等)に町会の方も参加し交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を実施。町会、包括、消防、市役所に参加いただき情報共有、交換をしている。徘徊模擬訓練を行い対応方法などを地域の方々とも共有している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告や、意見を頂き改善できるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入所状況の報告書を提出している。2ヶ月ごとの運営推進会議に出席してもらい、報告連絡等をこまめに行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置。玄関の施錠は夜間のみ行っている。緊急やむを得ずの条件を満たしている該当者1名には、家族から承諾の署名捺印を頂き、安全ベルトを使用することになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修などを通じて学ぶ機会を持ち虐待防止に努めている。接遇委員会を設置し職員同士チェックできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修などを通じて学ぶ機会を持ち制度について周知している。成年後見制度は1名制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時書面をもって説明、署名捺印を頂いている。契約時及び面談時他、本人、家族の不安や疑問など解決できるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情があった場合は速やかに施設長へ報告し職員全体へ周知を行い、改善に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等については都度施設長に上申している。意見、要望を出せる場として、ユニット会議やリーダー会議を実施し反映に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得のための研修等への参加。担当業務の割り当て、自己評価の実施と自己研鑽。実績に応じた昇給。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な職員研修の実施。研修会、講習会への参加。職員個別で勤務時間を調整し不得意分野等を習得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、広域連絡会での情報交換、地域包括支援センター主催の事例検討会等へ参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や紹介元から情報収集を行っている。本人家族と面談を行い要望、心配事などを確認し対応策を検討している。安心安全を考え対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族や紹介元から情報収集を行っている。本人家族と面談を行い要望、心配事などを確認し対応策を検討している。安心安全を考え対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の意向を確認し状況に応じ、他のサービス利用も含めて情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを第一に考え信頼関係を構築しながら、職員は共に生活する一員として互いに助け合いながら(生きがいや役割を実感できるように)すごせるように関わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会時や必要時は電話での連絡を密に行い情報を共有できるようにしている。家族の思いやホーム側の意向とをすりあわせて関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊、面会は自由に行なっている。友人や近所のかたの面会もあり、また、行事等にも参加してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然に人間関係が築けるように座席の工夫や、行事や場面の設定、職員の仲介などに工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退居する際などは家族、入院先と連携し情報を共有し本人、家族が安心して過ごせるように配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の意向を聞き取り、またアセスメントに配慮し本人本意にできるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や、紹介元より情報を収集しアセスメントしながら本人の暮らしが継続できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集はもとより、プラン作成時はアセスメントに力を入れ、個別に対応出来る内容の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	情報収集し偏った内容にならぬよう、スタッフ全員、施設長、家族の意見や気付きを反映した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、ケアを実践し、そこからの発見や気付きを大切に、必要に応じ臨機応変に追加変更しながら介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画に基づき、ケアを実践し、そこからの発見や気付きを大切に、必要に応じ臨機応変に追加変更しながら介護計画の見直しに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議は地域、市役所、包括、消防などに参加してもらっている。町会行事には入居者さんも積極的に参加している。ボランティアの受け入れも積極的にこなしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望で受診の医療機関を見極め意向に沿うようにしている。必要に応じて母体の医師より他の医療機関への紹介等を行ない適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を確保している。法人内の看護師が月2回健康相談で訪問、また病状に応じて点滴や処置に来ている。医師との連携がスムーズに行えるよう看護師が調整連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、情報提供を積極的に行い入院中も安心して過せるように努めている。入院中は家族、医師、病棟看護師、相談員等と連絡をとり、回復状況を確認し早期の退院ができるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「終末期の覚書」、「看取りに関する指針」等を説明し署名捺印を得ている。入居後3ヶ月頃に「終末期の覚書」を家族と本人の希望を伺い協議の上作成している。入院も考慮し母体病院や総合病院などへの連絡調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置のマニュアルを作成している。職員研修時や日々のシュミレーションを行い訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。町会の参加もあり協力体制を確保している。毎月定期的に防災に関するシュミレーションを1週間継続して行い職員全員が避難先や避難方法を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別ケアに配慮している。声かけの方法や口調、早さなどに注意して対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々の出来ること、出来ないことを見極め、自己決定ができるよう場面を調整している。自身の思いを表現するのが難しい方は思いを汲み取り寄り添った関わりができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自のペースを大切にしています。自己決定を優先できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自主性のある方は自身の自由に任せていますが、適切な衣服や身だしなみとなるように、声かけしながら見守っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、形態を工夫しながらバランスよく楽しみ満足できる食事提供を心がけている。下膳や簡単な準備等も出来ることを見極めながら、事故のないように見守っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の食事分量を把握し、少ないときは軽食や捕食でバランスよく摂れるように配慮している。形態や食器、好みなどを考慮し個別の対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、入歯洗浄を行い状態に応じてブラッシングや洗浄の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握しトイレ誘導や交換の介助を行っている。出来ることを見極めて継続してできるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便確認と申し送りをしっかりと行い状況に応じて医師の指示をもらっている。便秘のリスクを共有し際は早めに対処するようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を優先している。体調や気分を十分に考慮しながら、気持ちよく入浴できるように支援している。拒否の多い方にはタイミングや声かけを工夫し対応している。入浴が出来ないときは清拭をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間や場所、環境について各々がゆっくりとくつろいで過せるように配慮している。自己決定が出来ない方は生活リズムを考慮して誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の個別ファイルを作成し服薬の内容を職員全員で共有している。誤薬のないように読み上げ、薬袋の確認等を徹底している。症状が変化の際は医師、看護師へ上申ししている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の出来ること出来ないことを把握し、出来ることを自信を持って行うことができるように場を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を伝えることができる方は少ない現状ですが、生活歴などを考慮して働きかけるようにしています。懐かしい場所や地域にでかけられるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小銭程度を所持している方もいますが、ほとんどの方は家族の希望や混乱などを考慮し所持していない。必要に応じて日用品と一緒に買い物に行き、品物を選ぶなどは実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置している。希望時は電話を使用している。混乱を招く場合もあるので積極的に働きかけてはいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは十分な広さがあり、各々のくつろげる居場所づくりができています。環境整備には配慮し落ち着いて過せるように努めている。季節を感じられるように装飾している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に居室やリビングで過している。一人になる空間や皆で楽しめる空間づくりに努め、状況に応じて場面を設定したり、誘導しながら楽しめるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族、本人と相談の上、なじみの物や趣味の物、安全な物を設置している。本人が安心し、居心地よく過ごせるように設置場所を工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できることが続けられるようにわかりやすく、安全に過せるように環境整備をしている。事故のないように努めている。階段昇降やストレッチなど毎日継続して行い、体力、筋力維持に努めている。		